

和歌山県教育センター学びの丘 広報誌

まなぶだより



「一人一人にとって最適な学びを」 教育センター学びの丘 所長 森田 浩二

春の訪れは、私たちに新たな活力や希望を与えてくれます。しかしながら、今年1月に発生した能登半島地震の被災地におきましては、未だ多くの方々がお不自由な避難生活を余儀なくされています。心よりお見舞い申し上げます。

今回の震災において、住民の方々への生活再建に向けた取組とともに、いち早く対応がなされていることに、児童生徒の就学機会の確保、やむを得ず学校に登校できない児童生徒への対応、教育課程の修了認定等、心のケアを含む健康相談等の充実があります。「こどもたちの学びを止めない。」これは、ここ数年来の新型コロナウイルス感染症への様々な対応において、常に念頭に置いてきたことでもあります。

本県の、この春の明るい話題として、第96回選抜高等学校野球大会への県立耐久高等学校と県立田辺高等学校の2校の出場があります。両校とも、昨秋の地区大会での活躍とともに、

フェアプレーの精神、友情、連帯を育むことを目的とする大会理念にふさわしい日常的な取組、そして、対話を重視した部活動の在り方が評価されたものと聞いています。本県のこどもたちには、自己実現・自己表現の大切な一場面としてスポーツ、文化・芸術をはじめ、様々な活動における一層の活躍を期待したいと思います。

さて、人工知能(AI)など、近年の情報通信技術の高度な発展に伴い、社会の有り様が大きく変化しています。ICTの進展による新たな可能性の模索により、これまでに見られた一斉的・画一的な学校教育の在り方の検討、改善が求められています。こどもたち一人一人にとっての最適な学び、学校や学級規模(1クラスの児童生徒数)に左右されない教育の質の担保、誰一人取り残さずに多様なこどもが共に学ぶ環境づくり等を進める必要があります。

令和5年度からの取組を示す
「第4期和歌山県教育振興基本

計画」には、こどもたちが主体的に考え対話を重ねることを通して、望ましい規範意識や自他を認め合う態度を育み、適切な行動を選択できるようになる教育を進めることが明記されています。

本県教育に携わる私たち教職員には、こどもたちの健やかな成長を、多面的に見守ったり支援したりすることのできる環境や仕組みを絶えず整備する必要があります。当センターでは、教職員の皆さんが自らの専門性を向上させることができるよう、研修の充実、研究の推進に職員一同、全力で取り組んでまいります。



学びの丘に隣接する新庄総合公園の菜の花



全国教員研修プラットフォームについて

本県では令和2年度から今年度まで、「きのくに教職員研修管理システム」を通して、研修に係る手続き等を行ってまいりました。

令和6年度からは、全国教員研修プラットフォーム(以下システム)に移行します。本県教職員は、このシステムを使って、シラバス閲覧、受講申込、アンケート回答、研修受講履歴の確認を行うことができます。さらに、全国の大学等が登録する研修動画を視聴することもできます。システムを通じて受講した研修の受講履歴は自動作成され、システム外で受講した研修の受講履歴については、手動で入力することが可能です。

対話に基づく受講奨励や振り返り等において、本システムと校長及び教員としての資質の向上に関する指標を有効に活用することで、学びをより一層深めることが期待されています。



令和5年度和歌山県教育センター学びの丘研究報告会 【オンライン配信による平日開催】

令和5年度学びの丘研究報告会を1月26日(金)に開催しました。今年度は、新しい時代の教育に向けた持続可能な参加体制の構築のため、オンライン配信による初めての平日開催としました。報告会の前半は、国立特別支援教育総合研究所久保山 茂樹 氏を迎え、「『共生社会の担い手を育む』をこれからの保育・教育の合い言葉に」と題して講演していただきました。久保山氏は、「共生社会の形成に向けて、こどもたちが今後、共生社会の担い手となるために、私たちは気になるこどもの視点で保育・教育を見直すことが大切である。」と終始穏やかな口調で話され、心温まる講演となりました。参加者からは、「私たちが行っていることを少し視点を変えるとインクルーシブ教育であると言えるものがあることがわかりました。」等の感想が寄せられました。後半は、学びの丘研修員研究報告をブレイクアウトルームに分かれて行いました。研修員はこれまでの研修の成果と課題を報告書とスライドにまとめ、熱の入った報告を行いました。報告後の質疑では、最終報告書のウェブ掲載に向けて、貴重な意見をいただくことができました。

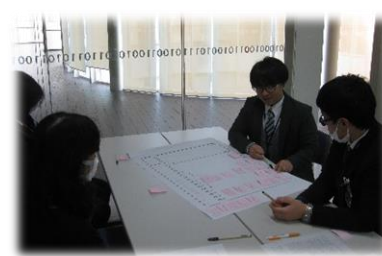
実施形態や日程について、オンライン配信による平日の午後開催としたこともあり、昨年の参加者を上回る122名の出席がありました。大変実りのある報告会とすることができました。



オンライン配信本部の様子



研修員発表の様子



本年度研修員の所内での学びの様子 ～ 所内の施設を活用しての研修や模擬授業演習 ～



全教職員の協働による学校改善～安心して語り合える職場環境づくり～

中堅教諭等資質向上研修共通研修4を、1月29日(月)に紀北会場で、1月30日(火)に紀南会場で実施しました。校内研修会運営実践では、「危機対応」「授業改善」「生徒指導」からテーマを選び実施した校内研修会の内容を報告し合いました。実践発表及び意見交流を通して、同僚性、協働性の視点からそれぞれの校内研修会を振り返り、教職員同士をつなぐ効果的な研修会の在り方について考える機会としました。

「きのくにコミュニティスクールについて」の講義や「全教職員の協働による学校改善」の演習・協議では、目指したい学校(仮想)の姿を「北極星」に見立て、目指すべき目標を明確化したり、その目標と学校の使命や地域の願い、求められる教職員像・行動規範とを照らし合わせたりしながら、目標の実現に向けて必要となる具体的な取組・活動を考えました。

本研修を通して、受講者は、教職員が同僚性、協働性を発揮して学校の機能を活性化でき、安心して「目指す学校」について語り合える職場環境をつくっていけるように、世代間の橋渡し役として「自分らしさ」を生かしながら何ができるかを考えることができました。



演習の様子